

中標津空港脱炭素化推進計画の概要

1 基本的な事項

◆ 空港脱炭素化推進に向けた方針

- ・空港関係事業者が一体となって、省エネの推進及び再エネの導入を最大限実施する。
- ・地域連携・レジリエンス強化の観点からも取組を実施する。

◆ 温室効果ガスの排出量

区分	2013年度	現状 (2019年度)
空港施設	707 t	644 t
空港車両	96 t	122 t
計	803 t	766 t

◆ 温室効果ガスの削減目標

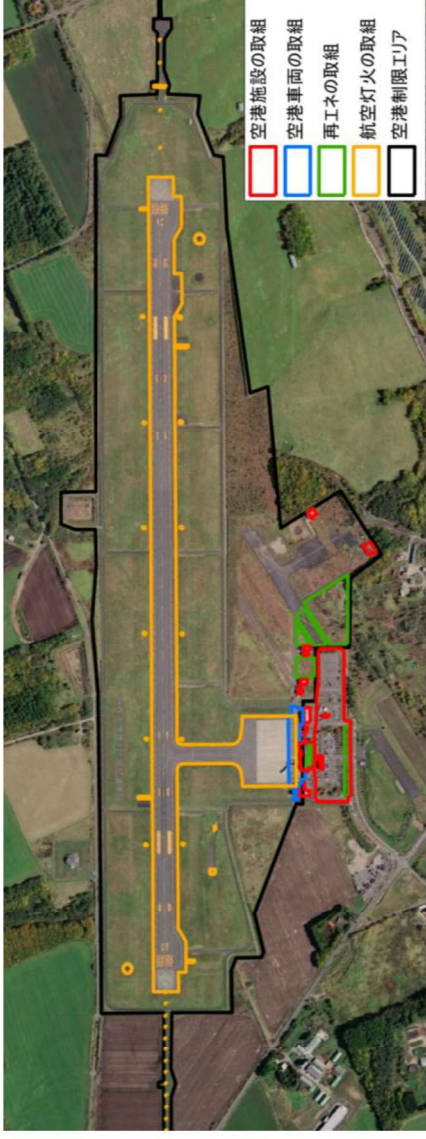
2030年度目標	2013年度比 50%削減
2050年度目標	排出量の実質ゼロ



◆ 進捗管理

- ・空港脱炭素化推進協議会を定期的に開催し、本計画の推進を図るとともに、進捗状況を確認。
- ・確認結果や技術の進展等を踏まえ、適時適切に本計画を見直し。

2 取組内容



◆ 空港建築施設の省エネ化

- 2030 旅客ビル等の照明のLED化、航空灯火のLED化。
- 2050 排出量削減に資する具体的な取組みの検討を継続。

◆ 空港車両への次世代自動車等の導入

- 2030 更新時期に合わせて順次次世代自動車の導入を進める。
- 2050 あわせて必要な設備を整備。
- 大型車両等はバイオ燃料の活用も検討。

エネルギー別	次世代自動車の導入台数		
	現状	2030年度	2050年度
ガソリン	7台	3台	0台
軽油	18台	17台	13台
次世代自動車	1台	6台	13台

◆ 太陽光等の再エネの導入

- 2030 空港用地内及びその周辺に太陽光等の再エネを導入し、旅客ビル等に電力供給する。
- 2050

導入設備	設置規模	
	2030年度	2050年度
地上設置型	800kw	936kw
	6,887㎡	8,058㎡

◆ 地域連携・レジリエンス強化

- 2030 相当規模の再エネを導入する場合、電力供給範囲や供給時間の延長、余剰電力の公共施設への供給等について検討。
- 2050